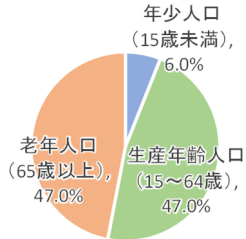


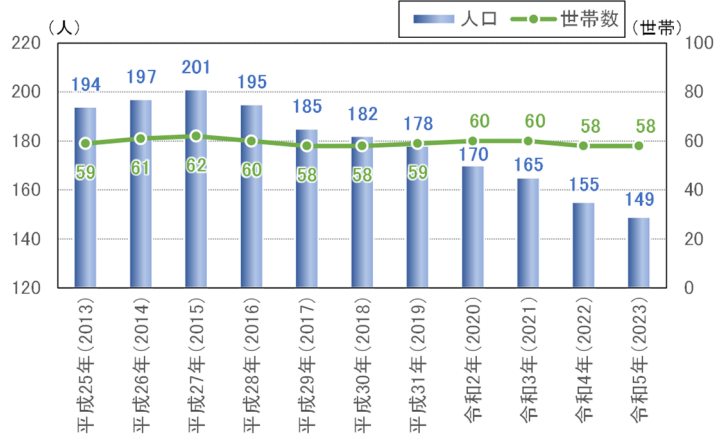
# 久谷 (くたに)

人口・世帯数等 (令和5年4月)	
人口	149人
世帯数	58世帯
高齢化率	47.0%

### 年齢別人口割合



### 人口・世帯数の推移 (過去10年間)



### 区域の概要

**立地** 集落の西側以外の三方を山に囲まれた農村で、久斗川に注ぐ久谷川を挟んで家屋が並ぶ。集落の北側を JR 山陰本線が通り、無人の久谷駅がある。南側の山裾を国道 178 号 (旧浜街道) が東西に走る。

**地名由来** 柳田國男によるとこの種の地名は燃料採取地の地名としており、久谷の「久(ク)」は「木(キ)」と同義語で、「木谷(コタニ)」の転訛かもしれない。(「たじま地名考」日本海新聞、『ひょうごの地名』(吉田茂樹著))

**歴史等** 弘治3年(1557)の『但馬国にしかた日記』によると、久谷村に「下野殿」「下野源衛門」が居住しており、戦国期の領主は下野氏と思われる。集落南側の丘陵上に築かれた久谷城の城主も下野氏であった可能性が高く、久谷城は、交通の要衝桃観峠の押さえの城であったと考えられる。近世の久谷村は、豊臣政権下では太閤蔵入地(豊臣氏の直轄地)で、江戸時代には、慶長10年(1605)旗本宮城氏知行、正保元年(1645)幕府領、寛文8年(1668)豊岡藩領、文化3年(1806)からは幕府領となった。家数は、文化3年(1806)68、嘉永元年(1848)67。天保5年(1834)の『但馬国郷帳』(天保郷帳)の村高は88石余。

明治22年(1889)大庭村の大字となり、昭和29年(1954)からは浜坂町の大字となる。明治24年(1891)の戸数38、人口は男93・女97。明治44年(1911)に山陰本線の桃観トンネル・餘部鉄橋が完成し、翌年久谷駅が開設した。昭和46年(1971)に国道178号に桃観トンネル(588m)が開通し、昭和55年(1980)には久谷バイパスが完成した。

### これまで把握している文化財

文化財の件数 55 件 (うち指定等文化財 5 件)

大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等	
有形文化財	建造物	建築物	2	23	0
		石造物	2		1
		工作物・その他の構造物	3		0
	美術工芸品	彫刻	2		0
		絵画	0		0
		芸品	11		0
		書跡・典籍	0		0
無形文化財		古文書・歴史資料・考古資料	3	1	
		音楽	2	0	
		演劇	0	0	
		工芸技術	0	0	
		その他の無形文化財	0	0	
民俗文化財	有形の民俗文化財	信仰の場	5	18	0
		祭具	1		0
		民具	0		0
	無形の民俗文化財	その他の有形の民俗文化財	1		0
		年中行事・民俗芸能	11		2
		民俗技術	0		0
		食文化	0		0
記念物	遺跡	民間説話・俗信	0	12	0
		その他の無形の民俗文化財	0		0
		散布地・集落跡・生産遺跡	1		0
		古墳・その他の墓	3		0
		城館跡・寺社跡	2		0
		街道・古道等	2		0
	名勝地	戦争遺跡	0		0
		その他の遺跡	1		0
		山岳・高原・丘陵	0		0
		海岸・海浜・島嶼	0		0
		河川・滝・溪谷・湖沼	0		0
		公園・庭園	0		0
動物・植物・地質鉱物	その他の名勝地	動物	0	0	
		植物	3	1	
		地質鉱物	0	0	
文化的景観		生活・生業・風土により形成された景観地	0	0	
伝統的建造物群		宿場町・城下町・農漁村等	0	0	



但馬久谷の草蒲綱引き



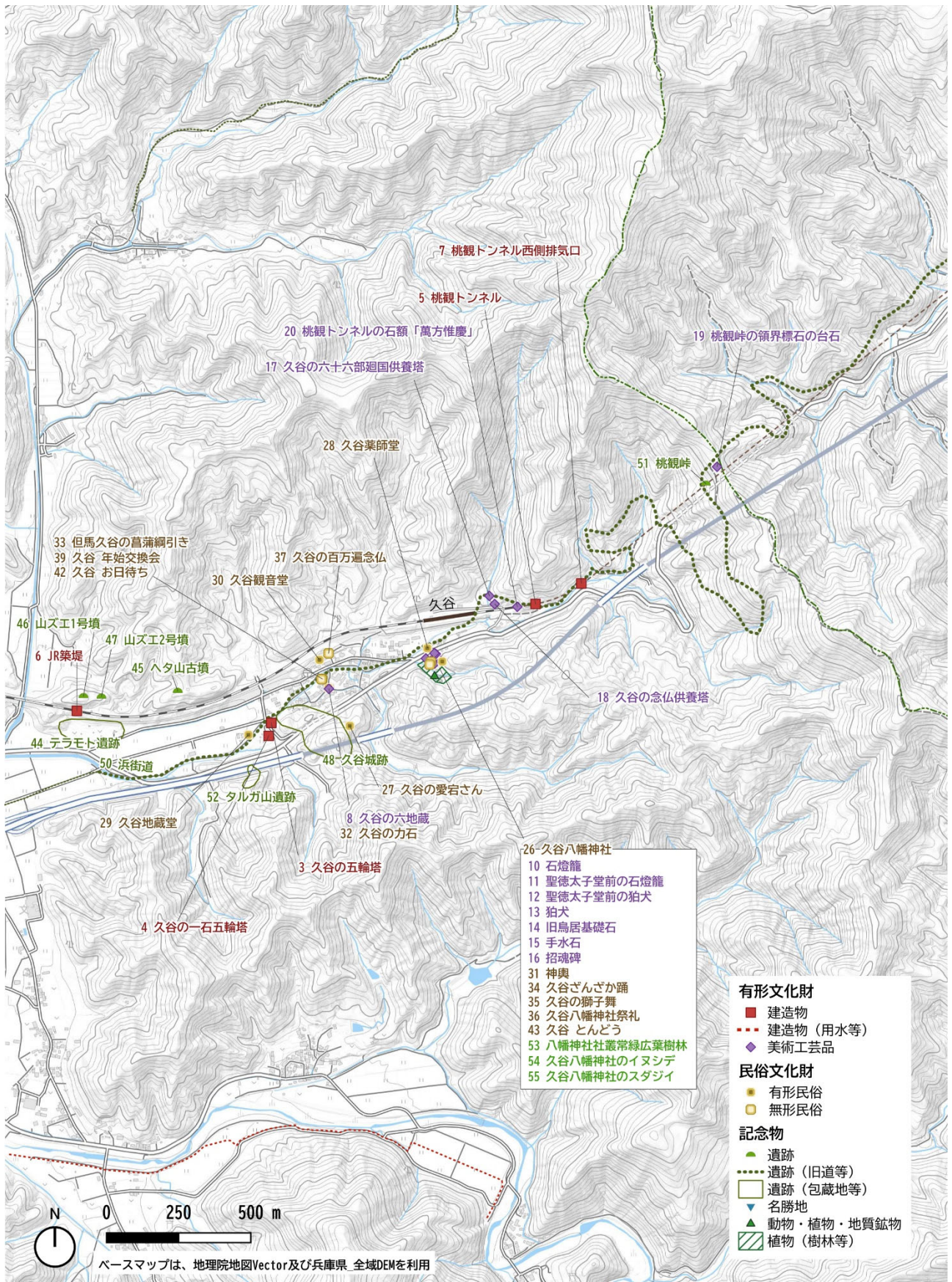
久谷ざんざか踊



桃観トンネル

※人口・世帯数は住民基本台帳(令和5年4月現在)による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

## 2-13 久谷

### 文化財の一覧

#### ■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
建築物	1	旧庄屋株本家住宅	江戸時代の建築。木造2階建、瓦葺。
	2	尾崎家住宅	明治時代の建築。木造2階建、瓦葺。
石造物	3	久谷の五輪塔	久谷集落の右手前の山裾に位置する。地区の言い伝えによると、昔、源平の合戦で敗れて落ち延びてきて、久谷で亡くなった武將を供養するために建てられ、代々久谷の庄屋が世話をしてきたという。五輪塔は、平安時代の末頃から建てられるようになり、江戸時代には僧侶や武士の墓などとして広く建てられるようになったもので、古い時期の五輪塔は大型で軟質の石材（凝灰岩）、新しい時期の五輪塔は小型で硬質の石材（花崗岩）で作られている。久谷の五輪塔は、高さ160cmで一部凝灰岩が使われていることから、室町時代後期の五輪塔と思われる。地区の言い伝えと若干時代差があるが、五輪塔が建っている場所は戦国期の居館と城の一角であることから、山城の城主下野氏との関係もうかがえる。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">町指定文化財</span>
	4	久谷の一石五輪塔	久谷の五輪塔の西隣の小山の山頂に位置する。2基あり、いずれも凝灰岩製。大きさはほぼ同じで、形状は異なるが、室町時代後期の作品と思われる。周辺には宝篋印塔の一部のかけらが見られることや、地山からは遺構・遺物が確認されないことなどから、室町時代に供養として奉納された供養塔が時代を重ね何らかの原因で崩壊し、その代わりとして一石五輪塔を奉納したと考えられている。
工作物・ その他の 構造物	5	桃観トンネル	明治44年（1911）に完成した山陰本線で最も長い全長1,991mのトンネル。山陰本線の中で最大の難所が香住-久谷間の工区であり、全線開通もこの工区が最後となった。約4年間の年月をかけ、当時の技術の中でも最も近代的な工法が採用されて造られた。竣工当時の記録では全長1,841mであるが、大正7年（1918）の北但大風水害で山崩れが起きて香住側の坑口が埋まり、新たに掘りなおしたため、トンネルも延長された。トンネル坑口の石額は、当時の鉄道院総裁後藤新平直筆によるもの。久谷側の坑口は馬蹄形をしており、建設当時の美しい石積の姿を残している。
	6	JR 築堤	明治44年（1911）頃に築造された築堤。当時の日本の技術では長いトンネルを掘ることは不可能だったため、山陰本線では、トンネルの長さを最短に抑え、急勾配にしないため、海拔の低い地域では堤を築いて、その上に線路が敷設された。
	7	桃観トンネル西側排気口	桃観トンネルの西口から240m奥に西穴があり、明治時代の工事空気穴のまま、完成後は排気口となっている。なお、東穴は東口から150m奥に入ったところ（香美町内）にある。

#### ■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	8	久谷の六地藏	丁字路の道路脇に位置する。切石に6体の地藏を彫り出している。左隣には地藏尊1体、右隣にはかつての六地藏と思われる地藏石材が集められており、一部破損しているものも見られる。
	9	久谷八幡神社の聖徳太子像	江戸後期の建立。「太子講連中」10人の大工の名前が記されている。聖徳太子が大工の元祖という信仰は室町末期よりはじまり、江戸時代には大工・木工をはじめ、左官・桶・鍛冶といった職人たちが太子講を営んだ。像は立像で、一般には両手で香炉を持つが、この像は曲尺を持っている。像の納められている堂は昭和42年（1967）7月に新築されたもので、堂の前に狛犬（1対）、石燈籠（1基）がある。

分類	番号	名称	概要
工芸品	10	久谷八幡神社の石燈籠 (1845年建立)	弘化2年(1845)8月15日建立。若連中寄進。石材は地場産のもの。基礎は六重。笠は分厚く、軒の出も長いので、やや過重感がある。笠がこのように大きくなったのは江戸時代以降である。
	11	久谷八幡神社聖徳太子堂 前の石燈籠 (1888年建立)	明治21年(1888)建立。大工の名が刻まれている。
	12	久谷八幡神社聖徳太子堂 前の狛犬 (1908年建立)	明治41年(1908)8月15日建立。左右台座には、大工の名が連なる。
	13	久谷八幡神社の狛犬 (1834年建立)	天保5年(1834)6月建立。本殿前に位置する。出雲来待石を使用。
	14	久谷八幡神社の旧鳥居基 礎石	旧鳥居は昭和2年(1927)、久谷村大工連により建立された。平成10年(1998)に鳥居を新調建立するにあたり、記念として旧鳥居の基礎石を集めて、新鳥居脇の山裾に陳列している。
	15	久谷八幡神社の手水石 (1855年建立)	安政2年(1855)5月建立。六花卉石造りの手水鉢で、「若連中 世話人 半右衛門 忠右衛門」「石工ミサキ仁兵衛 六郎兵衛」と彫られている。
	16	久谷八幡神社の招魂碑	明治45年(1912)に山陰本線工事の犠牲者を供養した招魂碑。朝鮮名も刻まれており、明治期に朝鮮半島出身の犠牲者を供養した碑としても注目されている。
	17	久谷の六十六部廻国供養塔 (1825年建立)	正面には「天下泰平・日月清明、大乘妙典六十六部廻国供養塔」「文政八年(1825)酉年二月十五日」「当村行者弥平」とあり、旅人の通行安全を祈願したものである。
	18	久谷の念仏供養塔 (建立年不明)	凝灰岩の自然石型。高さ90cm。建立年は不明。主碑銘は「南無阿弥陀佛」。
	19	桃観峠の領界標石の台石	桃観峠の切通しの脇には、以前、「是より東出石領」と書かれた郡境の石柱が建っていた。現在は、その石柱は余部梶原(香美町)の八坂神社石段脇に移転されて、峠には台座のみが残る。
20	桃観トンネルの石額 「萬方惟慶」	久谷・余部間の桃観トンネルの東西坑口上部に、後藤新平の筆による石額がかかる。久谷側のもは「萬方惟慶」(すべての人がこれをよろこぶ)、余部側のもは「惟徳罔小」(この徳は少なくない)と草書で書かれている。「明治43年(1910)のものである。花崗岩。210×90cm。	
古文書・ 歴史資料・ 考古資料	21	久谷八幡神社棟札	久谷八幡神社は、以前は蓮台山上にあり、応永21年(1414)8月、現在の場所に移されたと伝えられている。八幡神社には、「寛正4年(1463)」と「天文11年(1542)」の社殿葺き替えの棟札が残されており、いずれの棟札も八幡神社の由来を知る貴重な文化財である。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">町指定文化財</span>
	22	株本順夫文書	個人蔵。江戸時代から近世の久谷村関係文書。
	23	久谷地藏堂の宝札	平成29年(2017)12月24日に、堂内の老朽化した菩薩尊像から発見された2枚の宝札。文政13年(1830)3月24日のもの。江戸時代中期頃から但馬六十六地藏巡りが盛んになり、久谷村の吉左衛門が長年かけて六十六箇所の尊像を写し、多くの信者に尊像を寄進してもらって、久谷村の地藏堂に奉獻したことなどが記されている。

#### ■ 無形文化財

分類	番号	名称	概要
音楽	24	わらべ唄 (手まり唄：太市さん)	※『但馬海岸 但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』(昭和49年、兵庫県教育委員会発行) p194 参照
	25	わらべ唄 (おてだま唄)	※『但馬海岸 但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』(昭和49年、兵庫県教育委員会発行) p196 参照

## 2-13 久谷

### ■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	26	久谷八幡神社	祭神は児屋根命、表筒男命、品陀和気命。創立年月は不明。山城国石清水八幡宮より分霊を勧請したと伝える。初めは蓮台山の嶺に鎮座していたが、応永21年(1414)に現在地に遷座。明治6年(1873)10月に村社に列せられる。境内社には、稲荷神社(稲倉魂命)、下宮神社(麓山祇命)、大森神社(離山祇命)、十六神社(稲背脛命)、八柱神社(神速素戔鳴尊)、兵主神社(須佐ノ男命)、大將軍神社(経津主命)がある。
	27	久谷の愛宕さん	愛宕神社は火伏の神として、久谷字上の山の中腹、村を見下ろせる場所に祀られている。起源は不明であるが、文化3年(1806)の村明細帳には愛宕神社は見られず、文化7年(1810)、同8年(1811)に大火に見舞われていることから、この災害後に愛宕権現を勧請したものと想定される。
	28	久谷薬師堂	久谷八幡神社の北側に久谷川を背にして建立されている。本尊の薬師如来は、地区民の安康息災の守護を祈念するものである。村では、薬師堂を八幡神社の覆屋の屋根葺き材である茅(ススキ)の乾燥場として利用し、祭りでは村芝居の会場としても使用していた。
	29	久谷地藏堂	堂の中には数多くの石仏が祀られている。地藏堂はムラの出入りに建てられ、魔物や病気が村に侵入するのを防ぐと信じられていた。現在の堂は以前より少し移動している。
	30	久谷観音堂	起源は不明であるが、但馬国二方郡社寺改帳(享保12年(1727))には「観音堂は字しれい谷に一軒 坪内反別不知」と記録されており、この頃には既に観音堂があったことが知られる。明治期の山陰本線の建設に伴い、観音堂は字上の町の裏山に移転・遷座した。堂の老朽化がひどく、急勾配の山道は年寄りには苦渋であったことから、昭和54年(1979)12月に現在地に移転・新築された。
祭具	31	久谷八幡神社の神輿	毎年9月15日久谷八幡神社例祭の際に使われる神輿。大小3基が現存し、以前は3基が使われていたが、現在は一番大きい神輿が使われている。
その他の有形の民俗文化財	32	久谷の力石	力石は、古くは罪の重さを決める手段の一つとして用いられていたが、次第に石を持ち上げると願いが叶うという「石占い」として、神社の境内に置かれるようになった。この力石を持ち上げる行事は、昭和初め頃まで町内各地でさかんに行われていた。

### ■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・民俗芸能	33	但馬久谷の菖蒲綱引き	端午の節句行事として、6月5日に行われる。生の菖蒲やよもぎ、すすきを編みこんだ綱をおとな組と子ども組に分かれて引き合い、年占いに加えて地区の発展を祈って行われる。「エートー、エートー」のかけ声をかけながら7回引き合う。7回目の勝負を納め綱と呼び、この勝負でおとな組が勝つと、その年は豊作になるといわれている。この行事は、江戸時代から日本海沿岸に伝わる綱引き行事の形態をよく伝えられている。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">国指定重要無形民俗文化財</span>
	34	久谷ざんざか踊	久谷の「ざんざか踊」は、全国各地に分布している「風流太鼓踊」の一つで、毎年9月15日、久谷地区の氏神「八幡神社」の例祭の時、神前や各家庭の庭で踊るものである。「五穀豊穰」「氏子安全」を祈願して神社に奉納した後、2組に分かれて家々の庭先で踊って氏神の祭りを祝う。また、正午頃には「獅子」を先頭に、「榊」「山鉾」「御神輿」「ざんざか踊」の順に、氏子総代の庭に集まって芸を演じ、祭りを最高潮に盛り上げる。薄れゆく伝統芸能保持の人心を喚起するため、昭和33年(1958)に保存会が結成され、中学生を対象に代々伝承されている。また、踊の体形が行道型をとることと、頭上に被る一文字笠の形態が、但馬地方のざんざか踊の被り物の中で最も古い形態が残っている。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">県指定重要無形民俗文化財</span>

分類	番号	名称	概要
年中行事・民俗芸能	35	久谷の獅子舞	9月15日の久谷八幡神社例祭で、舞はないが、門付を行う。獅子と狸々が出る。久谷地区で傳承されている。
	36	久谷八幡神社祭礼	9月15日に行われる。ざんざか踊が奉納される。
	37	久谷の百万遍念仏	疫病(疫神)鎮送の行事の一つで、念仏をとなえつつ御幣を村境に送る習俗。「仏の口開け」「くり」とも呼ぶ。とんどうの次の日曜日に行われる。
	38	久谷ののぼり立て行事	6月5日の午前零時、若連中のうち未婚の若者だけが集まり、前年の節句からその年の節句までに結婚した若者がいる家に武者幟を立てる。これは「その家に男子(家継をする子)が誕生することを願う」という意味があり、幟を立ててもらった家は、この作業の様子を見てはならないし、知っていても知らないふりをしなければならない。幟を立ててもらった家は、翌日立てた若者たちに酒と金一封(昔は酒と肴)でお礼をすることになっている。かつてはその家と同じ家紋の家に幟を借りていたが、現在では家紋に関係なく親戚から借りている。
	39	久谷 年始交換会	1月1日午前中に行われる。
	40	久谷 初盆墓まいり	8月13日に行われる。
	41	久谷 初盆宅おまいり	8月14日に行われる。
	42	久谷 お日待ち	1月2日に行われる。
	43	久谷 とんどう	1月7日に行われる。

#### ■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
散布地・集落跡・生産遺跡等	44	テラモト遺跡	弥生～平安時代の散布地。弥生土器・土師器・須恵器片が多数散布。
古墳・その他の墓	45	ヘタ山古墳	古墳時代の古墳。円墳、径10m。
	46	山ズエ1号墳	古墳時代の古墳。円墳、径8m。
	47	山ズエ2号墳	古墳時代の古墳。円墳、径10m、横穴式石室。
城館跡・寺社跡	48	久谷城跡	中世の城館跡。堀切・郭が残る。標高110mにある上の城と、集落近くの標高44mにある下の城に分けられる。小規模な曲輪群を並べた単純な縄張り、戦国期の改修は皆無と考えられ、南北朝期から室町期の様相を呈している。性格的には、村人が立籠る「村の城」と考えられ、余部から浜坂へ至る交通の要衝を押さえる城でもある。『但馬国にしかた日記』(弘治3年(1557))には、久谷村に「下野殿」「下野源衛門」が居住しており、戦国期の領主は下野氏の可能性が高い。
	49	久谷八幡神社元屋敷	久谷八幡神社は、以前は蓮台山上にあり、応永21年(1414)8月、現在の場所に移されたと伝えられている。区では平成12年(2000)4月に蓮台山八幡屋敷への登山を実施。
街道・古道等	50	浜街道	歴史的には「因幡道」「湯島道」とも呼ばれ、豊岡から鳥取間を結ぶ。江戸時代の浜街道を「古道」、明治時代の浜街道を「旧道」と呼ぶ。ルートはほぼ現在の国道178号に沿い、道幅は街中で約2間、平地は1間、山中では約半町であった。浜坂村・森秀助の『出雲紀行』や但馬国美含郡轟村・細田方斎の『因幡行日記』などの紀行文、伊能忠敬測量日記(第5次)などに浜街道が使われた記録が残る。久美浜代官が領内巡検のために浜街道を使ったことや、庶民も浜街道を使って往来していたことも知られる。
	51	桃観峠	浜街道の郡境の峠。もとは、「百生杉(ももうすぎ)峠」「股見(ももみ)峠」と呼ばれた急峻な道で、明治に「桃見峠」と改称された。桃観峠の浜街道は、江戸期の徒歩による古道と、明治以降の馬車でも通れる旧道とが交差している。峠の頂上は現在の国道178号桃観トンネルの真上辺りにな

## 2-13 久谷

			り、切通しになっている。
--	--	--	--------------

分類	番号	名称	概要
その他の遺跡	52	タルガ山遺跡	古墳時代の5基の古墳群と思われていたが、調査の結果、古墳は確認されず、集石1基、石組を伴う経塚1基が確認された。経塚は平安末～鎌倉時代と推定される。

### ■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
植物	53	八幡神社社叢常緑広葉樹林	久谷八幡神社の周囲には、大小の差はあれ、常緑広葉樹が群生しており、スダジイ・ヤブツバキ・シダ・サカキなどの暖帯性の樹木が多く茂っている。 <span style="float: right;">町指定文化財</span>
	54	久谷八幡神社のイヌシデ	イヌシデ1本。 <span style="float: right;">県指定郷土記念物</span>
	55	久谷八幡神社のスダジイ	スダジイ1本。八幡神社の鎮座記によると、現在地に遷宮されたのは應永21年(1414)とあり、スダジイの樹齢も500年以上と推定される。二本株立で苔むし、カズラを着生させる。 <span style="float: right;">県指定郷土記念物</span>

### 自治会の区域における歴史文化・文化財の記録作成等の取組

- ・『久谷村のあゆみ』（令和元年12月、久谷区村史編集委員会編集、久谷区発行）



